



北海道北見柏陽高等学校同窓会「かしわ会東京支部」2020 年度会報  
 発行日 2020年7月31日  
 発行者 北海道北見柏陽高等学校同窓会 東京支部  
 著作 敏明 神奈川県川崎市麻生区岡上 1412-48

令和元年 生徒会執行部と各部長のみなさん

## 二〇一九年度総会・懇親会開催される

二〇一九年十月六日 於 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

二〇一九年度の「かしわ会」東京支部総会・懇親会は前年と同じ市ヶ谷の私学会館を会場に82名の参加者を得て盛会に開催されました。

総会は、校歌斉唱に始まり椎名支部長の挨拶、来賓者のご紹介、来賓者を代表して「かしわ会」本部舩川会長の挨拶のあと、当期役員より二〇一八年度の活動・会計報告がなされ、満場一致で承認されました。



続いて開かれた懇親会では、乾杯のあと、古賀恵美子さん率いる「ブリージン」メンバーによる歌声を聴きながら思い出話に盛り上がりました。そのあと恒例の抽選会ではジャンケン勝者が各方面から提供されたお土産を獲得、最後に北見を思い出し「北見のひとよ」「お元気ですか」「第三応援歌」を熱唱、一本締めでお開き、次回の再会を約束して散会しました。



### 二〇二〇年度東京支部総会・懇親会の開催に当たって

かしわ会東京支部長 著作敏明

新型コロナウイルス感染症の拡大により外出の自粛等が求められています。皆さまには如何お過ごしでしょうか。昨年の総会でご挨拶させて頂きました著作です。本年から当支部の運営を、椎名前支部長はじめ前任の諸先輩から引き継ぎ、新たな役員で今年の総会・懇親会の準備を進めているところです。

私たち「かしわ会」の会員には北見柏陽高校という共通の学び舎を卒業して得た絆

があります。同窓会はこの絆を再発見させ、さらに強く太く育てていく場であると考えています。今年も出来るだけ多くの仲間のご参加を頂き、お酒を酌み交わしながら絆を深めて頂きたいと思っています。

さて、首都圏では緊急事態宣言が解除され徐々に元の社会生活が戻りつつあります。現在役員一同、十月の総会・懇親会に参加される皆さまを安心してお迎えできるように準備を進めております。共に楽しい時間と絆をさらに深められるよう皆さまのご参加をお待ちしております。

## 二〇一九年度総会報告 および承認事項

### 活動報告

- ・総会
- ・懇親会
- 会計報告(二〇一九年度)
- ・収入計
- 125万4682円
- ・支出計
- 92万6758円
- ・次期繰越金
- 32万7924円

### 二〇二〇年度役員紹介

#### ●支部長



著作敏明(20期)

#### ●副支部長



千田 潤(20期)

#### ●副支部長



小竹利和(20期)

#### ●副支部長



古賀恵美子(21期)

#### ●幹事長



岡崎 誠(22期)

#### ●副幹事長



鏡 康(27期)

#### ●副幹事長



豊嶋享一(27期)

#### ●会計



菅野和彦(28期)

#### ●会報



角田丈志(19期)

#### ●会報



讃岐 雅(24期)

#### ●会計監査

椎名孝典(18期)

高島正志(18期)



# 2020 年度 東京支部総会の開催に寄せて

## かしわ会東京支部総会に寄せて

北海道北見柏陽高等学校同窓会

かしわ会会長 舩川 誠

例年10月に開催される東京支部総会に合わせた寄稿文ですが、今年の秋はどのような事になっているのでしょうか。新型コロナウイルス収束の希望が見え、延期した東京五輪・パラリンピック開催に向け明るさを取り戻して欲しいと願わずにはいられません。この原稿は7月初旬に書いていますが、色々なことが自粛・中止となる環境に置かれてしまい、天候もさることながら季節を彩る行事やイベントなどを通して季節感を味わっていたことに改めて気づく昨今です。

左の写真はようやく姿を現した新しい北見市役所です。昨年は建築パースでご紹介しましたが完成間近となりました。駐車場などの外構工事も年内には終わり、1月から供用開始となります。建物の真ん中あたりが終戦直後からあった大通販売の場所ですので様変わりですね。建物2階の左側から伸びているスカイウォークでパラボ（旧北見東急百貨店）と連結しています。昔の小公園と市役所の建物に懐かしさを覚える世代の私ですが、北見市の新しい交流拠点として賑わいを取り戻して欲しいと思っております。



次の写真は、同窓会設立70周年の記念事業として学校に寄贈した「自立型掲示板」です。現在の北見柏陽高等学校同窓会は、昭和24年12月4日の第1回同窓会開催（初代会長・寺西キク）を以て設立され、昨年設立70周年を迎えました。昨年9月6日のかしわ会総会において議案として提案し、ご承認を頂いたことから昨年11月11日に寄贈致しました。北見柏陽の存在感の発信に活用して頂きたいと思っております。

掲示板には「新型コロナウイルスに負けない！」と在校生の強い決意が示されています。

新型コロナウイルスの感染拡大により、人生の大切な節目である卒業式や入学式の規模が縮小し簡略化されました。その大切な時の過ごし方を失い、そして異常な環境下での入学や進学のスタートを迎えることになり、また、人生で一番輝き躍動する機会、最後の目標としてきた活躍の場が奪われてしまったことに、掛ける言葉が見つかりません。それでも負けない、また頑張ろうとしている在校生の姿は、先輩として大変誇りに思っています。この見えない敵との戦い方の一つである「新しい生活様式」は、人間としての過ごし方やこれまでの様々な情景を一変させてしまうのではないかと恐ろしくもなりますが、私たちも「負けない」そんな勇気を与えて貰った思いであります。



## かしわ会東京支部の皆さんへ

札幌かしわ会会長 中村 敬臣

かしわ会東京支部の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。昨秋から札幌かしわ会の会長を仰せつかっております21期生、上常呂中学校出身の中村敬臣です。今年は年明けから新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、皆様方の生活も何かと不自由を強いられていることと思います。特に北海道においては、我がふるさとの北見や札幌においてクラスター感染が発生し、不本意ながら全国的に注目を浴びることとなりました。

私は高校時代は水泳部に所属していたものの、3年生のときに母校が初めて夏の甲子園大会に出場したこともあり、オホーツクブルーのユニフォームが大好きで、練習試合も含め母校の応援のために北見に“遠征”することがしばしばというオタク族でした。

その野球観戦と併せて、道東の名峰斜里岳や羅臼岳の登山を毎年楽しんでいましたが、今年はコロナ禍で身動きができません。ストレスを溜め込んでいたところですが、そんな中でも、札幌在住の同期生とは交流（最近にはLINE）を絶やさないようにしており、楽しかった高校生活を懐かしみつつ、近況報告を重ねています。

そうしていると、やはり高校時代が一番よかったなあと思います。本拠地北見ばかりではなく、私どもの札幌、そして置戸町や遠く東京でも支部活動が盛んに繰り広げられているのを見聞しますと、改めて柏陽高校同窓生の強い絆を感じるところです。

そして私も仕事の関係で東京に出張する機会が多いものですから、できれば東京での同窓会にぜひ一度顔を出してみたいなと思っている今日この頃です。

最後になりましたが、かしわ会東京支部の今後の益々のご発展と皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



## 東京かしわ会の皆様

北海道北見柏陽高等学校長 山本周男

東京かしわ会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日ごろより母校の教育活動へ物心両面に渡ってご支援を賜り誠にありがとうございます。



第32代校長の山本周男でございます。創立97年を迎えるオホーツクの伝統校、また私(29期卒)の母校である柏陽高校で今年が最後の勤務となります。残り少ない日々ではありますが、同窓校長として全力で努めてまいります。浅学非才ではございますが、最後までお引き立ての程お願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大から未曾有の危機の中、始まった令和2年でした。柏陽高校も2月23日から休業に入り、卒業式は卒業生と教職員だけの形ではありましたが、第70期生239名が無事に巣立って行きました。このような状況であるがゆえに、世の中が危機に対してどのように対処し社会が変化して行くのか、私たち人類がどう乗り越えて行くのかを冷静に見つめ、未来を創造して行くのか。この危機を体験している今の生徒たちだからこそ、その逞しさを身に付けてくれるものと確信しております。



5月18日(月)、28日振りに分散登校を開始

新年度は4月8日に始業式と入学式を行い第73期生194名が入学し、現在は1、2年生が5クラス、3年生は6

クラス、全校生徒628名で学習・行事・部活動に励んでいます。その後4月20日からすぐにまた臨時休業に入ってしまったが、5月18日から生徒を半分に分けた形の分散登校を経て、6月1日から平常の授業を再開することが出来ました。ようやく生徒の元気な声や真剣に学ぶ姿が戻ってきました。

現、柏陽町における校舎は現在3代目となりますが、昨年より大規模改修工事が入り外壁と屋根の改修が終わりしました。今年は電気関係と水回りを中心に改修が入ります。また、文科省のGIGAスクール構想の推進もありますが、コロナ禍において学力の保障「学校の学びを止めない」ために同窓会かしわ会のお知恵を借りて柏陽高校独自の「環境整備を進めています。オンライン会議アプリのZoomを活用した数学の授業やHR、また長期入院中の生徒への学習指導など本校の先生方は積極的に動き、まさかの第2波、3波への準備も進めています。また、昨年頂いた国道沿いの掲示板も活用して柏陽の元気を届けています。

生徒は、素直で落ち着いており品位と礼節を身に付けていることが今の実態です。しかし、71期生の現3年生は高体連、高文連、高野連、吹奏楽連盟など多くの主催大会が中止となり、努力する機会すら失ってしまいました。

伝統の柏陽祭や体育祭も中止せざるを得ない状況にあります。悲しみと悔しさがこみ上げる中、同窓の皆様から激励のお便りやメール、感染症防止に係るマスクや消毒用品など温かいご支援をいただきました。ありがとうございます。高校卒業後の進学・就職など進路決定に係る内容と日程等に関する変更、コロナ禍の収束まで見通しの効かない厳しい状況ではありますが、少しずつ「学校における新しい生活様式」で学校生活を進めて参ります。皆様の更なるご理解とご支援をお願い申し上げます。

## トピック

### 全国大会出場について

弓道部顧問 敦賀和芳

令和2年6月現在、弓道部は55名で活動しています。令和元年度には、高体連全道大会で男子が団体戦で11年ぶり4回目の優勝を果たし、同年8月からの宮崎県で開かれたインターハイ出場を果たすことができました。前年は、選抜北海道大会でも団体優勝し、岡山県で行われた全国大会にも出場していましたが、予選敗退してしまいました。そのため、今回のインターハイでは全国大会出場だけで満足することなく、予選突破に向け、そして全国制覇に向け意識を高めた連日の練習を頑張りました。



令和元年8月宮崎県インターハイの風景

ところが、8月の出発日に開催地である宮崎県が台風の進路と重なり、飛行機も飛ばさずどうか怪しい状況の中、なんとか宮崎に着くことができました。前日の公式練習は大会会場が避難所に指定され、翌日からは天気も回復し、無事大会を迎えることができました。予選は20射12中で、予選突破を果たすことができました。次の決勝トーナメント1回戦の相手は鹿児島南高校となり、11-13で惜敗してしまいました。しかし、今回の全国大会では貴重な経験を積むことができました。また、今後も北見柏陽高校の名を全国にとどろかせるために、日々練習に励み、邁進していきます。今後とも、同窓会の皆さまからの応援を頂きたく、よろしく願いいたします。



# 会員メンバー便り

## 還暦からのかしわ会

25期 清水彰彦

4年前、37年間勤続したソニー・ミュージックエンタテインメントを退職して一息ついていたところを、18期の高島先輩から声を掛けていただき、「かしわ会東京支部総会・懇親会」に参加することになりました。今回は24期の讃岐先輩に原稿を頼まれましたので、自分のことを少し書いてみます。

私は昭和42年、留辺蘂中学から北見柏陽高校に入学。1年間の汽車通学の後、2年生から北見市内に転居しました。当時の北見の街は賑わっていましたね。音楽好きで仲間と一緒にバンドなどを組んで活動していた私は、放課後に書店、楽器店、レコード店を覗き、ジャズ喫茶にたむろするといった高校生活を過ごす日々でした。

そんな放漫な高校生活の代償で1年間の自宅浪人生活を要しましたが、昭和51年に北海道大学に入学し北見を離れました。北海道大学では軽音楽部に在籍していたこともあり、就職先は音楽関係へと思い、当時のCBSソニー（現ソニー・ミュージックエンタテインメント）へ昭和55年（1980年）に入社し、長く音楽制作の現場に務め、管理職、子会社経営、監査役などを経て平成28年（2017年）9月に定年退職しました。現在は「日本芸術高等学園」の校長を務める傍ら、トークイベントやミニFM局でおしゃべりをするなど、気ままな業界OB生活、そして趣味のゴルフとランニングを続けています。



「かしわ会東京支部総会・懇親会」に参加してみて本当に良かったと思うのは、現在の北見だけではなく、当時・あの頃の北見に思いを巡らせ、語り合うことができるということです。

25期は札幌の元木一夫君が頑張ってくれていて、毎年札幌で同期会を催していますが、東京での参加者は少ないのが現状です。同期のみなさん、東京のかしわ会もよろしくをお願いします。

そして後輩のみなさん、還暦過ぎたらかしわ会！です。

### 【編集者からの情報です】

- 清水さんのトークイベントは以下の通りです。(^^)~
- ・毎月20日前後、於：赤坂 chance シアター
- ・ミニFM局トーク番組：FM江「大藤史の季節を抱きしめて」

## 私の懐かしい思い出

28期 菅野一彦

私の出身は東藻琴村（現大空町）で、中学卒業と同時に北見に引っ越して来ました。また受験学区が網走であった為に高校入試は越境となり不安な気持ち一杯で入学しましたが、入学当日には野球部への入部を決めました。中学でのクラブ活動が非常に緩かったこともあり、甲子園出場の名門野球部への入部は、自分にとって緊張と夢の「甲子園出場」という期待に胸膨らむものでした。

野球部での活動は、練習もしきたりもマナーも、今まで体験した事のない程厳しく、そして誇らしいものでした。またOBの先輩達も時折指導に来て下さり、毎日の練習が新鮮で充実感に満ち溢れていました。3年の夏には北海道大会ベスト4まで進み、甲子園まであと一歩のところまで悔しい思いをしましたが、間違いなく柏陽高校での野球生活が、また3年間一緒に過ごした仲間が、その後の私の人生を形成してきたと言っても過言ではありません。

当時の仲間との交流は、還暦を迎えた今でも掛け替えのない時を刻み、感謝の気持ちで一杯です。



菅野さん：前列右から3人目

その他、高校生活での思い出は、女子の制服がブレザーでカッコ良かった事、文化祭の行灯行列、仁頃山周辺の30kmどんぐりマラソンなどが挙げられます。野球の練習に託けて真面目に参加しなかったかもしれませんが、どれも高校生活を彩った私の青春の1ページです。3年の大学受験では、共通一次試験が導入され、授業が選択制となり大学受験に合わせたカリキュラムが組まれ、午後からは選択科目のみの授業など、当時の授業割の先駆けモデル校であったのを覚えています。

現在卒業後40年が過ぎ、振り返って感慨深く思うことは、高校生活3年間では100人弱との出会いでしたが、現在は、同窓会の案内を頂き新しい多くの方々との出会いがあり、また今年度から幹事として本会のお手伝いをさせて頂いていることを非常に光栄に思っています。これからも出会いを大切に本会を盛り上げていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

### 【編集後記】

皆さま「おー!!柏陽2020」をお届けします。今回表紙を飾って頂いたのは昨年度の生徒たちですが、本年も生徒の皆さん、教職員の皆さま方が元気で過ごされていることと思います。同窓会の皆さまも、現在「新型コロナウイルス感染症」による生活様式の変化を求められる毎日ですが、元気にお過ごしのことと思います。お忙しい中、原稿をお寄せくださいました方々、ありがとうございました。

讃岐 記